

令和7年5月発行



丹波山村
地域おこし協力隊

地域おこし協力隊通信

村全体が学びの舞台！新協力隊員が描く明日

vol.26

村上 陽基 むらかみ はるき

2月より地域おこし協力隊として活動させていただいております、村上陽基（むらかみ はるき）と申します。

私が「丹波山村にきた理由」は、幼い頃より当村に興味を抱いていたためです。親族が山梨にいる関係で幼少期より国道411号を使用しており、道中の丹波山村に惹かれておりました。そこで、転職を機に地域おこし協力隊というかたちで当村に参りました。丹波山村での生活を心から楽しみながら、地域の活性化に貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

内田 唯 うちだ ゆい

昨年の9月にTURNS LOCAL COLLEGEに参加し、初めて丹波山村を訪れました。たくさんの村民の方々と触れ合うにつれ、この村の魅力に惹かれ、協力隊員になりたいと思うようになりました。

これからは丹波っこくらぶなど教育事業に取り組んでいきます。初めて子どもたちと出会った時のキラキラした瞳が忘れられず、これからもその未来を全力で支えていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

武田 光樹 たけだ こうき

地域おこし協力隊インターンとして丹波にきて1ヶ月、子どもたちのクリエイティブな感性や高い吸収力に、いつも驚かされています。どこまでも伸びていく可能性を秘めた村の宝である子どもたちをお預かりしているという自覚を持ち、一人ひとりの良さや可能性を存分に伸ばす企画を数多く実行してまいります。

また、校内外の垣根を越え、村全体を教育の場と捉え、子どもたちの「こんなことをしてみたい！」「アイデアを形にしてみたい！」というワクワクを全力で後押ししてまいります。「失敗や間違いは宝物」子どもたちがたくさん挑戦できる環境を整えてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

高橋 真生 たかはし まお

はじめまして。この度、地域おこし協力隊として参りました高橋真生（たかはし まお）と申します。

これまで私は、支援を必要とする子どもたちの福祉に携わってきました。長年の経験を活かし、丹波山村の子どもたちの成長をサポートしたいと考え、こちらへやって参りました。日々の暮らしを通して村に馴染み、皆さんとコミュニケーションを図りながら、子どもたちの笑顔のために尽力してまいります。

#ニホンミツバチ

たばやまの春の音色に、蜜の予感
地域おこし協力隊 えっちゃんの養蜂奮闘記-序-



丹波山村に本格的な春の息吹が感じられる4月。色とりどりの花々が咲き誇る中、とあるお家の庭から、電動工具やノコギリを引く楽しむような軽快な音が聞こえてきました。

南向きの斜面や畑に可愛らしい四角い木箱が積み重ねられています。これは、丹波山村の自然の恵みの一つ、「ニホンミツバチの養蜂」の巣箱。村内でも数人の人しか行っていない養蜂に地域おこし協力隊の“えっちゃん”こと、柴田悦子さんが挑戦しています。

「電動インパクト、初めて使ったんですよ！」

と笑顔で話す柴田さん。奥秋の木下栄和さんのご指導のもと、木箱の組み立てから、ミツバチを誘引するための工夫まで、一つひとつ丁寧に巣箱を作り上げました。その出来栄えに栄和さんも「上手いものだ」と太鼓判を押すほど。真剣な眼差しで木材と向き合う柴田さんの姿からは、新しいことへの挑戦を楽しむ雰囲気が溢れていました。



柴田さんが養蜂を始めたのには、素敵な夢があります。役場裏に自ら作り上げた鮮やかなタバスキの花畑。その美しい花々にミツバチが集い、巣箱で甘く濃厚なハチミツを育ててくれたら嬉しいですね、と話していました。



ミツバチたちがタバスキの花からどんな蜜を集めてくれるのか、今から期待が高まります。春の陽気に誘われて、丹波山村の魅力を育むえっちゃんの挑戦。その甘い蜜の便りが届く日を、心待ちにしています。

お菓子作りの趣味のえっちゃんなら、採れたハチミツでどんなスイーツを作るのかも楽しみです！

